

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792930018		
法人名	社会福祉法人 みやき会		
事業所名	グループホームさめがわ 1丁目		
所在地	福島県白河郡鮫川村大字西山字水口31		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧校庭の施設正面に、地域の老人クラブの方々がお花壇を作ってくれて、いつでも観賞できる。また西側には野菜畑を作り食材に、少しづつではあるが取り入れている。現在、コロナ禍の為、利用者様の手伝いなく、ピザ窯を利用し行事食として提供し楽しませている。地域への外出は感染対策をしながら実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所は、かつての小学校跡地に開設され地域の方々にとって懐かしい場所となっており、コロナ禍の状況下でも、感染防止に配慮しながら、草刈り、体育館を活用した「健康体操」「中学生の体験学習」の実施と地域の方々による花壇の植栽や手入れ、菜園への野菜苗の提供などをいただきながら交流を継続している。
2. 隣接する同法人の特別養護老人ホームと合同の各種委員会(身体拘束廃止・虐待防止・サービス向上・感染症予防等12委員会)を定期的に開催し、共通認識を深めながら利用者本意のサービス提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の朝の申し送り時に意識づけするために唱和を行い、理念を共有し実践に繋げている。	事業所理念を事務室に掲示し、週の初めに全職員で唱和しながら理念を共有し、サービスの中で実践できるよう取り組んでいる。また、事務室・玄関には職員行動指針を掲示し意識しながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域へ季節ごとの花見ドライブの外出行い、現在は外食できない為、出前の活用している。庭の一部を提供し地域の方々が花を植えてくださっている。	地区自治会に加入している。旧小学校跡地に事業所があり、コロナ禍の中でも花壇の植栽や手入れ等は地区の老人会の方々行っている。また、事業所の畑で栽培する苗などの提供を得ている。体育館を利用した、健康体操や中学生の体験学習も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験を受け入れ認知症の人の理解を求める機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催予定であったが、コロナの状況により回数を減らしており、年に2回の会食会も現在は中止している。	運営推進会議は年間開催日を事前に委員に周知している。開催時は利用者状況及び活動、コロナ対策状況等を報告し、意見をいただき、それを運営に活かしている。本年はコロナ禍で委員会開催を2回見送り、例年実施していた事業所での会食も中止としている。	コロナ禍の中で、対面会議開催が難しい場合、事業所の運営状況や利用者状況など、定期的に書面で委員に報告(書面開催等)し、各委員から意見や要望をいただき運営に活かせるよう検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場職員、包括職員にも推進会議に参加して頂き、又電話などでも常に連絡を取り入居状況や新規入居者の相談を含め連携を図っている。	運営推進会議に、村の担当者が出席しており、事業所の実情を理解していただいている。担当者とは、入居希望者情報や各種報告、利用者に関する相談を通して、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一回の委員会開催、ユニットごとの事例の検討や、勉強会にて理解を深め、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	毎月、身体拘束廃止委員会・虐待防止委員会を開催し、会議の中で不適切な対応や言動がないか検証(ストレスチェック含む)しながら、身体拘束等具体的な行為の理解を深めながらケアに取り組んでいる。玄関はワンタッチ式ドアとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一回の委員会の開催、勉強会にて理解を深め、アンケートを実施し改善策を話し合い職員一人一人の意識の向上に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会を実施し学ぶ機会を設け活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に分かりやすい説明を行い、質問など聞き入れ不安の無いように努め、理解と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様のアンケートを実施し、意見や要望を聞き運営に反映させている。又面会時や電話でも話す機会を設けている。	日常生活の中で利用者の希望や意向を把握している。また、家族への電話報告や面会時に意見を聞き、運営推進会議に家族代表と利用者の参加を得て、意見を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で一人一人の話す機会を設け意見や提案を聞き、反映させている。	管理者は、日常的に職員の意見や要望を聞くよう努めている。また、会議開催時には職員一人ひとりの意見を聞く機会を設け、出された意見等を運営に反映している。施設長・管理者による個別面談を年1回実施している。同敷地内の特別養護老人ホームとの施設運営会議・リーダー会議で意見具申の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を勤務に反映させ、均等に有給が取得出来る様に有給をとらない職員には事業所が提示し取得して頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で法人外の研修は困難なため、事業者内での研修会、毎月介護に関する雑誌の購読にて理解や技術の向上を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモート研修に参加する事により交流する機会がありサービス向上に繋げている。コロナの影響もあり交流が制限されていた。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を軽減するため、分かりやすい表現や言葉の選択等に配慮し、本人の要望や思いを十分に傾聴出来るよう、進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ること出来ないことを明確に伝えるよう配慮し、ケアマネージャーや担当職員が家族の要望や思いを十分に傾聴できるよう進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査に基づき、状態や客観的なニーズを職員間で話し合う取り組みがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力が低下しない様、行えることは継続して頂き、困難または危険な事柄に関しては支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時の電話連絡以外、毎月担当者が家族へのお便りを書き、状況を伝達している。コロナ禍の為、家族様との面会制限がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は制限されている為、馴染の利用者様の所への移動支援に努めている。	コロナ禍で外出は控えているが、家族の協力を得て、馴染みの美容室に出かけ関係を継続している。また、家族との通院や電話の取り次ぎ等で関係が継続できるよう支援している。毎月、お便りで生活状況をお知らせし、LINE導入や窓越し面会で関係が途切れない支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で集まれる場所(居間)があり、関係性を考慮しながら、利用して頂いている。食事時間や自由時間においても、話題を提供するなどしながら関係性を深めている。また、居室で過ごされている方に関しては、訪室にての声掛けなど実施。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状態把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや意向を確認しながら、ケアプランに反映させている。	日常生活の関わりの中で利用者の思いや希望を把握するよう努めている。特に入浴時は、利用者の思いや意向の把握に貴重な時間として、利用者の発する話題に耳をかたむけるよう取り組んでいる。また、「昔話に花を咲かせよう」を生活の中に取り入れ、利用者の思いを引き出せるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者台帳やフェースシートを活用し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、心身状態等の変化が有った場合は記録し、申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態変化と課題検討を行い、心身状態等の変化が有った場合は、家族に連絡し説明し、意見を頂く。又は理解を頂くなど行っている。	3ヶ月毎の介護計画見直しを基本としている。日々の関わりやケア記録を基に、職員で話し合い、家族等の意見を反映した介護計画を作成している。心身の状態変化時は、変化に応じた見直しと現状に即した介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録にて状態を把握し、ケアプランに役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態・ニーズに応じて支援するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、感染対策をしながら外出ドライブにより地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則在宅時の掛かりつけ医を継続。主な疾患が変わる等、対応困難となった場合は、変更。又、原則家族対応が図れる場合は家族による通院をお願いしている。(コロナ禍の為、受診対応は施設が行っている)	入居後もかかりつけ医の受診を継続している。現在はコロナ禍により、歯科医受診以外は職員が同行し、受診後の状況を家族に電話報告している。家族同行の場合は、日頃の健康状態をまとめた書類を渡し、情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調不良時や疾病予防法などは看護師に対応相談し、適切な対処や調整及び感染予防など行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も定期的に病院に電話で様子伺いをして情報交換や相談に努めている。連携室との連携を図り、情報収集を考慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしていない。ご家族や医師の意見を踏まえ可能な範囲での緩和ケアや精神的な支援を考慮している。	往診可能な体制が取れていないため、看取りケアは行えていないが、入居時に事業所の看取り体制の現状を説明し、同意を得ている。協力医療機関で終末期の対応を行っている。徐々に重度化していく利用者のケアについてユニット会議などで話し合い、意識の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に避難訓練や通報訓練を実施している。AEDの講習会(今はコロナで中止)、急変時の対応、連絡先を確認し緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定した避難訓練を実施している。地域の消防団の協力も得られる状態にある。	夜間想定訓練と通報訓練を実施しており、11月には消防署立会のもと避難訓練を予定している。台風や地震などの自然災害への対応についてもスタッフ会議で情報交換が行われている。隣接する特別養護老人ホームで非常食3日分を備蓄し、事業所では飲料水・衣類(防寒着)・非常電源などを準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重とプライバシーの確保をしながら本人にあった声掛けの工夫等が行えるよう進めている。	「自分が受けたくないケアは利用者にしていない」を基本に尊厳を大切にしている。スピーチロックにも配慮した声かけに努めている。耳元で小声で声かけをし、人格を尊重したトイレ誘導や居室入室の際のノックや退室時の挨拶等を徹底している。介護記録などは施錠のもと書庫に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とゆっくり話の出来る場面を設け、思いを聴いたり、本人が選択できる事柄に関しては、本人の意思で進めてもらう等している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制することなく、本人が過ごしたいように過ごして頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望やその人らしい衣服の購入に努めている。起床時などの更衣の身だしなみの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜作りを事業所で行い、収穫作物を食事として提供。出前を頼んだり、外食したり、食事場面の变化も楽しんでもらえるよう配慮している。	季節の食材を献立に反映している。食材料は村内の店舗から仕入れている。事業所敷地内の畑で収穫したトマトやきゅうりなども取り入れている。職員も一緒に食事をし、味の感想などを話しながら、楽しい時間を過ごしている。出前食事やお弁当のテイクアウトなども行い、利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況により、形状や量、味付けなど考慮し提供。オヤツを含め献立は、栄養士が立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声がけし、自歯や義歯の洗浄、磨き残し部の介助を行い清潔維持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期排泄の声掛けを行い個人の排泄パターンを把握し誘導見守り、処理援助をし出来ない部分の支援を行っている。	尊厳を重視した声かけのもと、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。便秘気味の利用者が多いため、多めの水分補給やホーム周辺の散歩(運動)を心がけている。おむつや尿パッド類の家族の費用負担についても管理者が職員に随時説明し、コスト意識の高揚に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便票を作成し、10時のおやつに牛乳やゼリーを提供するとともに、水分摂取を促している。また、適度の運動、毎日の体操や歌、散歩などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向を聞きながら、2日間隔で定期的に入浴を提供しており、入浴の無い日は足浴を実施している。	利用者の希望に合わせて、週2～3回の入浴を実施。入浴剤、菖蒲湯やゆず湯を取り入れたり、足元が冷えないように足浴しながら洗体介助をしている。1対1のケアで会話を重視し、快適な入浴ができるよう意識している。入浴拒否の際も言葉かけを工夫しながら浴室に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣やその日の体調に合わせて意向を聞き入れながら休息時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の既往歴、現在の病気、薬を把握し、与薬時は必ず2人以上で確認をし服薬支援を行っている。又、状態が変化したり症状が変化した際は家族と病院に報告、指示を出して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が毎月行事計画を行っている。季節ごとの行事食も楽しまれ、誕生会は個人の嗜好品を献立に取り入れたりし皆でお祝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら、敷地内の散歩や日光浴を行っている。コロナ禍の為、頻度は少ないが感染対策をしながらのドライブに出かけている。	コロナ禍で外出の機会が減っているが、車窓からの花見や紅葉狩りなどを楽しんでいる。地域の方々から頂いた種や苗で育てた作物(畑)の手入れや事業所周辺の散歩、玄関前で外の気浴なども実施し、健康管理に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小遣いを預かり金庫に管理。必要に応じて、御本人と相談しながら買い物を実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、外部への電話連絡支援を行っている。携帯電話の所持制限なく、郵便物のやり取りも希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気づくりを心掛け、季節の花を飾る・装飾を施すなど行っている。	共用空間には花々や中学生からの手紙、季節ごとの飾り付けが施されている。清掃が行き届いており、清潔な環境のなかで、職員とともにパズルや塗り絵などを楽しんでいる。定期的な換気と適切な室温管理のもと利用者のアメニティの実現に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下にソファや畳椅子を置き、何時でも休むことが出来、他者との交流が図れる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者様一人ひとりの居室について、自宅で使用していた寝具や小物を置き、安心して生活出来るようになっている。	居室は6畳強の広さで、ベッド、洗面台、クローゼット、タンス、エアコンが備え付けられている。職員と一緒に清掃をし、衛生的で心地よい生活ができるように支援している。使い慣れた私物の他、家族の写真や誕生日プレゼントの写真付き色紙、行事の写真等が飾られ、安らぎある空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や排泄状況に応じて居室の位置を考慮し、危険回避が出来るよう配慮している。		